

2011 年度事業報告

1. 事業名、2. 事業実施国・地域、3. 事業期間、4. 従事者数、5. 事業実施の経緯、6. 事業目的、7. 裨益者、8. 事業費について下記にまとめる。事業内容、成果については別紙も参照。

事業名)

公共心が少ないと言われる国、パプアニューギニアでの道路整備

事業実施国、地域)

パプアニューギニア独立国、ウェスタンハイランド州、サザンハイランド州、エンガ州

事業期間、従事者数)

2011 年 4 月より 2012 年 3 月、2 名 (木村、福林)

事業実施の経緯と内容)

1. 2005 年度より農道整備事業を実施してきた実績が認められ、アジア開発銀行とプロジェクトのマネジメント契約を締結した。2009 年より 2012 年までサザンハイランド州、エンガ州の 8 つのコミュニティを対象に事業を実施する。マウントハーゲンに現地事務所を設置し、アジア開発銀行のプロジェクトを中心にした新しい活動を 2009 年 10 月より実施した。
2. 理事長が研究代表者を務める科学研究費プロジェクトに、研究協力者として参画した。マウントハーゲン郊外の山間部の村で勾配のある農道の整備を行った。
3. 多摩火薬機工(株)より、車両 (日産キャラバン) の寄贈を受けパプアニューギニア事務所に運搬した。今後道路整備活動や、整備された道路を通行しての作物の運搬などに利用する。

事業目的)

公共心が少ないと言われる国、パプアニューギニアにおいて、「土のう」による農道整備、簡便インフラ整備手法を住民へ技術移転、定着させ自分達の道は自分達で直すという意識を広げる。道路整備とともに、収入向上、保健、ジェンダーに関する教育を行い、社会経済利益の向上を目指す。

裨益者)

ウェスタンハイランド州、サザンハイランド州、エンガ州の住民約 15,000 人

事業費)

9,231,638 円

事業名)

ケニアにおける官と民からの農村インフラ整備に向けた技術移転

事業実施国、地域)

ケニア共和国、トランゾイア県、キシイ県、ニャンダルア県、エルドレット・ウェスト県、エルドレット・イースト県、ウォレン県

事業期間、実施者)

2011 年 4 月より 2012 年 3 月、5 名 (木村、喜田、松本、本庄、酒井、福林)

事業実施の経緯と内容)

1. ケニア国で設立・登録した NGO、COmmunity Road Empowerment (CORE)を母体とした活動を実施している。
2. 外務省「日本 NGO 連携無償資金協力」より資金協力を得て事業を開始した。

3. トヨタ環境活動助成プログラムと公益信託大成建設自然・歴史基金より昨年に引き続き助成金を獲得し、農道や河川堤防など農村インフラ整備、表土流出防止対策工による環境保全、苗木作成などの環境プロジェクトを実施している。
4. 日本より学生ボランティアを受入れ、現場体験の機会を提供した。
5. 連絡車を調達し、遠隔地や悪路の先にあるプロジェクト実施地域への移動や物資の運搬に役立っている。
6. (独)国際協力機構が実施する技術協力プロジェクト（小規模園芸農民組織強化・振興ユニットプロジェクト）へ専門家を派遣した。

事業目的)

ケニア農業省を通じ農民組織へ「土のう」による農村インフラ（農道、小規模ダム）整備手法の技術移転、定着化を図る。農道整備をきっかけとした農村社会開発を行う。また森林伐採が国家問題となっていることに対して、草の根レベルでの環境保全活動を促進し問題解決に貢献する。

裨益者)

「土のう」による道路整備や環境保全プロジェクトを実施したキシイ県、ニャンダルア県、ウアシンギシュ県、エルドレット・ウェスト県、エルドレット・イースト県、ウォレン県、マラクウェット県の農村部住民、約 20,000 人

事業費)

15,472,202 円

事業名)

フィリピンにおける地方大学の普及活動を通じた技術移転

事業実施国、地域)

フィリピン共和国、イルコス・ノルテ州

事業期間、従事者数)

2011 年 4 月より 2012 年 3 月、3 名（木村、酒井、福林）

事業実施の経緯と内容)

1. 2007 年度より、フィリピン、イルコス・ノルテ州、マリアノ・マルコス州立大学と連携した事業を実施している。「土のう」を利用した簡便インフラ整備手法の普及や定着度、河川護岸や擁壁建設などへの適用性について検証した。
2. 財団法人日本国際協力システムより助成を受けて、浸食対策として「土のう」を利用した護岸工を実施。

事業目的)

現地州立大学スタッフへ雨季に対応した農村インフラ整備に関する技術移転後、大学の普及部門を通して周辺農村コミュニティの農村インフラ整備実施能力の向上を図る。

裨益者)

マリアノ・マルコス州立大学スタッフ、学生、大学周辺コミュニティ、約 1,000 人

事業費)

396,715 円

事業名)

ウガンダにおける「土のう」を利用したコミュニティ道路整備

事業実施国、地域)

ウガンダ共和国、北部アチョリ地域

事業期間、従事者数)

2011年12月、1名(酒井)

事業実施の経緯)

1. 2007年に当法人はウガンダで協力隊への土のうによる道路整備手法の研修を実施した。2010年9月のタンザニアで実施した研修に参加していたウガンダの隊員より、再度現地研修の要請があった。そこで活動状況の確認と技術指導を行った。
2. 2010年までウガンダで青年海外協力隊として「土のう」を利用した農道整備活動を行っていた酒井が、道普請人職員となる。
3. 酒井が当時一緒に農道整備活動をしていたカウンターパートとともに、北部アチョリ地域でコミュニティ道路整備を現場指導。この事業は(株)エイト日本技術開発より委託を受けた。

事業目的)

ウガンダ北部地域のコミュニティ道路の維持管理と、長い内戦により疲弊したコミュニティの再生

裨益者)

ウガンダ北部アチョリ地域住民、不特定多数

事業費)

580,456円

事業名)

ガーナ国日本発「土のう」による農村開発整備事業準備調査 (BOP ビジネス連携促進)

事業実施国、地域)

ガーナ共和国

事業期間、従事者数)

2011年4月～2012年3月、2名(木村、酒井)

事業実施の経緯と内容)

1. 「土のう」による農道整備活動を行いその技術を身に付けた農民組織が、道路行政や地元選出国會議員の予算、また若者雇用制度などを利用し農道整備を受注する様子が見受けられた。途上国の農村部の人々が自ら収入を得て行くようなビジネス (BOP (Base of Pyramid) ビジネス) 化に向けて、国際開発コンサルタント、(株)パデコ、(株)国際開発アソシエイツと共同でガーナで調査を実施することになった ((独) 国際協力機構、日本発「土のう」による農村開発整備事業準備調査 (BOP ビジネス連携促進))。

事業目的)

農道という農村部生活社会基盤の整備を身の回りの材料と人力で実践する「土のう」による整備手法が BOP として実践されることで、収入向上につながり、かつ同時に自分達の生活環境が改善されることを目的とする。

裨益者)

ガーナの小規模施工業者、農民組織、農村部住民、不特定多数

事業費)

5,197,415 円

事業名)

カメルーン、海外青年協力隊への技術指導

事業実施国、地域)

カメルーン、中央州レキエ県ンゴクサ村

事業期間、従事者数)

2011年8月、1名(木村)

事業実施の経緯と内容)

1. 海外青年協力隊より「土のう」を利用した農道整備方法を習得したいとの依頼メールを受け、技術指導を実施
2. JST((独)科学技術振興機構)/JICA((独)国際協力機構)地球規模課題対応国際科学技術協力事業、カメルーン森林-サバンナ持続性プロジェクト「カメルーン熱帯林とその周辺地域における持続的生業戦略の確立と自然資源管理：地球規模課題と地域住民のニーズとの結合」のため、カメルーン入りしていた木村理事長が協力隊活動地域を訪問、技術指導。

事業目的)

青年海外協力隊の活動を支援し、その活動を通して途上国農村部住民の生活環境改善を目指す。

裨益者)

カメルーン協力隊員とその活動地域に住む住民、不特定多数

事業費)

121,721 円

事業名)

ニジェール、NPO法人コモンニジェールとの連携によるコミュニティ道路視察

事業実施国、地域)

ニジェール、ニアメー

事業期間、従事者数)

2011年9月、1名(木村)

事業実施の経緯と内容)

1. パナソニック助成事業を通して NPO 法人コモンニジェールと連携することになった。その活動地域であるニジェール現地道路状況視察。

事業目的)

NPO 間の連携を深めアフリカ大陸における活動展開のため、西アフリカでの道路状況を把握する。

裨益者)

ニジェール、コモンニジェール活動地域の住民、不特定多数

事業費)

83,807 円

事業名)

ミャンマー、NGO セダナーと連携した「土のう」を利用したコミュニティ道路整備

事業実施国、地域)

ミャンマー

事業期間、従事者数)

2012年2月、1名(木村)

事業実施の経緯と内容)

1. 在ミャンマー日本大使館から当団体活動に関心が寄せられた。現地 NGO セダナーの紹介を受けた。
2. セダナーは、日本財団、在ミャンマー日本大使館草の根事業の支援を受けコミュニティ開発事業を実施している。木村理事長が2回にわたり現地入りし、調査、施工準備、「土のう」を利用した農道整備研修をセダナー担当者と協力して実施した。

事業目的)

軍事政権下で抑圧され西側支援が行き渡らなかったミャンマーにおいて、整備が進まないコミュニティ道路整備を行いコミュニティの活性化を目指す。

裨益者)

ミャンマー、セダナー活動地域の住民、不特定多数

事業費)

94,256円

事業名)

国内・共通事業、「土のう袋」に描かれるアフリカの子供達の夢・未来、～親しみと気づきから広げる支援者の輪～(「Panasonic NPO サポートファンド for アフリカ」助成事業)

事業実施国、地域)

日本国内、ケニア

事業期間、従事者数)

2011年3月～2011年12月、3名(木村、酒井、福林)

事業実施の経緯と内容)

1. 「Panasonic NPO サポートファンド for アフリカ」の助成を受け、団体単独での広報活動を実施した。
2. 一週間にわたり展示と活動報告を行い、パンフレットや道路整備の様子(ケニア)の動画を作成した。

事業目的)

活動3年目を経てNPOとして広報活動を充実させ、より多くの方に活動内容を伝え支援者を増やす。

裨益者)

国内、不特定多数

事業費)

805,678円